

大正七年十月一日發行

婦人と子ども

第十八卷

第十號

フレイベル會

婦人と子ども 第十八卷 第十號 目次

幼児と齒	青木醇一
人形病院及び人形供養	西山哲治
幼稚園に於ける談話の使用法に就て	小高つや
子供を通して	坂内みつ
諸國お伽話	フレーベル會研究部
會告	
雜錄	

# 第廿三回フレールベル會總會

一、十月十二日（第二土曜日）午後一時半より

一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて

一、順序

(一) 會長挨拶

(二) 事務報告

(三) 議事

(四) 講演

神話の心理

(五) 茶菓懇談

東京帝國大學文科大學  
助教授文學士 桑田芳藏君

十月

フレールベル會

# 顧問 高島平三郎先生

# コドモ

## 本誌の四大特色

子供繪雜誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコドモを御覧になつてゐる間に物事を覚えお行儀がよくなること不思議な位です。

まじめで教育的なこと  
 繪が叮嚀で美麗なこと  
 お話が易しく面白いこと  
 片假名のみで讀易いこと

□ 定價一冊十二錢  
 □ 郵 税 五 厘  
 □ 六冊郵税共六十九錢  
 □ 十二冊一圓三十一錢  
 □ 郵税共  
 □ 總て前金の事  
 合本定價  
 各集郵税共五十錢

東京市小石川區  
 林町五十七

**コドモ社**

電話番町六一八  
 振替東京二七九六三

合本出來

大正三年七月號より  
 同 第三集  
 大正四年一月號より  
 同 第四集  
 大正四年七月號より  
 同 第五集  
 大正五年一月號より  
 同 第六集

# 婦人と子ども

第十八卷  
第十號

大正七年十月一日發行

## 幼兒と齒

青木醇一

御承知の通り、齒は小兒が生れて凡そ七、八ヶ月位の頃から生え初めまして、滿二年位の間に、ほぼ出揃ひます。此の時は上顎と下顎とを合せて二十本でありまして、之を乳齒と名づけて居ります。此の乳齒は、小兒が六、七歳になりますと、追々と後から出て來る新しい齒と抜け換ります。此の抜けかはりましたものは、大人になつても其儘残つて居りますので、之を永久齒と稱へ、全體では三十二本になります。

斯様な譯で、四、五歳の幼兒では、齒は大人と違ひまして、數もすくなし、又小さくて、弱いのであります。これが幼兒に咀嚼しにくい食物や堅

いものなどを與へてならない一つの理由となるのであります。

齒は消化器官の内で、第一の入口にあるもので食物をよく咀嚼して、之を細かにし、而してそれを唾液とよく混ぜ合せて、胃の方へ送り、胃腸での消化を容易にする役目を持つて居るのであります。食物がよくかみくだかれてありますと、胃に入つてからも、胃液の作用がよくなる譯であります。之に反して食物をよく咀嚼しないで丸呑みにすると、それ丈胃腸の負擔が多くなるのみならず消化も充分に出來なくなりませす。斯様な事が永くつづきますと、胃腸は追々と害され、從て消化作

用は益々悪くなり、遂には身體の營養にも障礙を及ぼして參ります。

でありますから、齒は消化器官として、胃腸と同様に大切なものであります。従つて平生其の攝生を守り齒の健康を保つ様にせねばなりません。然るに齒の保護と云ふ事は、一體に人々から閉却されて居ります。齒磨を使ふとか、口腔を清潔にするとか云ふ様な事は漸く青年期位になつて初めて行はれるのであります。そして幼兒なり、兒童なりに於きましては、殆んど顧みられない有様であります。幼兒などの齒を丁寧に検査して見ましたならば、完全な齒を具へて居る子供は、意外に少いのであります。大抵は齲齒を持つて居るとか一本なり、二本なり缺けて居ると云ふ有様です。これはすべてが齒の不攝生にのみよると云ふ譯ではありませんが、齒の養生如何と云ふ事が大きな原因をなして居る事は争はれない事實であります。そこで、私は齒の養生と云ふ事は、子供が大

きくなつてから、初めてすると云ふのでなしに、既に幼兒期から心懸けて頂き度いと云ふのです。

### ○齲齒の原因

齲齒が如何にしておこるか云ふ事をお話する前に、一應齒の構造をごく簡単に説明いたす必要があります。齒は、表面は、珐瑯費と申しまして極めて堅牢な物質から出來て居ります。其の内部を齒骨質と稱へて、之は骨質から出來て居ります。其の中心は、柔軟なる組織から出來て居りまして、此の中に澤山の血管や神経が來て居ります。そしてそれからごく細い神経纖維が齒骨質まで達して居るのであります。冷たいものや酸いものに對して齒が浮く様に感ずるのは之が爲めであります。

此の珐瑯質や齒骨質は化學的には主として磷酸石灰、炭酸石灰及び「マグネシウム」鹽等より成つて居るのですが、之等の石灰鹽は酸に合ふと、次

第に溶ける傾向を持つて居るのであります。例へば玳瑁に光澤のある珐瑯質を持つた健康な歯を取つて來まして之を酸性の液體の中に入れておきますと、二三日後には其の美しい光澤を失つて、其の表面は汚くなり、白い班點を生ずる様になります。之を永くおきますと、追々に石灰分は溶解されて遂には此の堅い歯が柔軟なる軟骨様のものに變ります。次にこの軟骨様物質の小片を取りまして之を酸性でない液體例へば唾液でもつけて、空中にさらしておきます。すると次第に腐敗して參りまして、終には不愉快な惡臭を放つ様になります。口腔内に於きまして、略ぼ、之と同様の作用が起るのであります。私共の口腔内には、いつも多少の食物の殘渣があります。殊に口腔を清潔に致しておかない人では、齒と齒の間などに、澤山殘つて居る譯であります。是等のものが、口腔内で酸性醱酵を起すのであります。つまり吾々が食べた澱粉質なり、糖分なりと云ふ含水炭素が、口

腔内に居る微菌の作用で分解されて乳酸醱酵を起し、斯くて乳酸が出来るのであります。この乳酸が齒に對して害になるのであります。即其永い間の作用で、珐瑯質や齒骨質が追々と崩壞されてゆきます。そこへ食物の殘渣の蛋白質類が腐敗醱酵を起すので、其齒は侵蝕されるのであります。

斯様な工合にして、齶齒は出来るのであります。が、殊に平素極く冷いものや、熱いものを飲むとか又は堅いものを無理に噛む等の事で、珐瑯質に細裂ひびが出来ると、是等の作用は一層容易に行はれるのであります。細裂と申しましても、勿論吾々の肉眼では見えない程の小さなものが出来るのです。

斯様にして、齒の珐瑯質、齒骨質まで、腐蝕されると、神經や血管の澤山來て居る齒髓が外にあらはれる様になります。従つて食片などが直接齒の神經にふれるので齒痛を覺えると云ふ様になつて來るのであります。尙進んでは齒髓までも敗壞

し、更にそこより、色々の黴菌が顎骨の内部にも達し、そこに病氣を起すと云ふ様な危険もあります。是等の危険の外、前にも申述べた通り、齲齒がありますと、食物の咀嚼が不充分になり、消化を妨げ、胃をわるくし、自然身體の營養にも及ぼす譯でありますから、齒の健康を保つと云ふ事は大層必要な事になるのであります。

## ○齒の攝生

之には第一に、口腔内を清潔にして置く事が大切であります。そして齒と齒との間に食物の殘渣の残つて居ない様にいたします。そうすれば、自然、乳酸醱酵と云ふ様な事も少くなりますし、又蛋白質が分解して、腐敗作用を起す事も少くなりますから、齒を傷ふ事が少くなるのみならず、口内が臭くて、周圍の人に不快の感を與へると云ふ様な事もなくなります。

それには含嗽をすると云ふ事が肝心であります。

す。成長した子供ならば、含嗽も獨りで出来ますし、楊子を用ひて、齒を磨く事も出来ますが、四、五歳にもなります幼児では、之が六ヶ敷いのであります。しかし含嗽位なれば、教へれば追々とうやう出来る様になりますから、食後には、必ずよく含嗽をさせると云ふ様にいたし度いと思ひます。

次に余り冷いもの、熱すぎる食物等を可成避ける事があります。是等が屢ば珐瑯質に細裂ひびを作る原因となるからであります。同様に堅いものを無暗に噛みくだくと云ふ事も避けねばなりません。健康な齒の發生と齒並みをよくする爲めには營養を適當にする必要があります。骨及齒の構成にはそれだけの石灰分が必要であります。従つて乳兒が一年前後になりまして乳齒の生える頃には、母乳以外他の陪食料を漸次加へて行く事は、此の點に於ても必要の事でありませぬ。又其の頃より、齒を適當に使ふ事、即ち食物をよく咀嚼する習慣を



つける事が大切であります。咀嚼運動によつて、顎骨及び歯牙への血液循環はよくなるのであります。従つて營養もよくなり、顎骨もよく發達して參ります。顎骨が適當に發育して居りませんと、乳齒が後になつて、それよりも形の大きい永久齒に抜け換る時に永久齒が奇麗に齒並みを揃へる事が出来ません。と云ふのは顎骨に永久齒が正しく列をなして並ぶ丈の余地がないと、或る齒は前に或る齒は後ろにと云ふ様に、齒並みに凹凸を生じて參ります。齒列が正しく揃はないと、人間は健康に見えません。そして醜いのみならず、丁寧に齒の掃除をしましても、齒と齒との間に食物の残渣が残り易くなり、従つて齲齒なども出来易くなります。

## ○乳齒保護の必要

乳齒は小兒が六七年後になりますと、追々と抜け落ちて、永久齒に換ります事は前申した通りで

あります、従つて乳齒はそれ程大切にせんでもよからうと考へる人があります。これは大變な誤りであります。乳齒は是非永久齒に代る迄丈夫に保存しておかねばなりません。それは單に幼兒期によく咀嚼の出来る爲めと云ふだけではありません。乳齒が齲齒になつて、早く落ちますと、顎骨の其の部分の發育は、停滯いたします。そして永久齒がそこへ生える場合、充分の場所がない爲めに、或は斜に發育し、或は前に、或は後ろにと云ふ工合に、齒の位置が自然悪くなります。或は又乳齒の齒根などが炎症に陥つて居る場合、丁度その後ろへと生えてくる若い永久齒が、同時に犯されると云ふ様な事もないとは限りません。そこで乳齒は永久齒と同様に其の保護が必要な譯であります。

尙こゝに一つ申し上げて置き度い事は、よく世間では幼兒が砂糖(菓子類)を澤山食べると、齲齒になると申しますが、これは何も砂糖を食べた爲

めに、齶齒になるのではありません。勿論砂糖は口腔内で分解して、乳酸醱酵を起しますが、これは澱粉質のものでも、同様であります。私共の毎日食べて居る米なり、野菜なりでも意味は同じであります。要は口腔を清潔にして置く事でありませぬ。お菓子を食べたところで、食後によく口を水でそ、ぎまして、其の残渣のない様にして置きさへすれば、自然糖分が乳酸醱酵をおこして歯を傷ふやうな事もなくなる譯であります。つまり何でも食べたものが口腔内に残留してゐると、それが分解して、乳酸醱酵を起し、乳酸が生じ、この乳酸が、齒の珐瑯質や齒骨質を崩壊せしめ、遂に其齒は侵蝕されることになるのであります。この時はもう立派な齶齒なのであります。それ故に吾々は食後の含嗽といふことを兎々も忘れてはなりません。殊に幼児には何か食べたら必ずうがひをするといふ習慣を早くから附けるやうにしたいと思ひます。

### ○古人虫十句

盆	過	て	響	聞	く	ら	し	虫	の	聲	芭蕉
虫	よ	虫	啼	て	因	果	か	畫	な	が	ら
乙	州										
雨	さ	む	く	草	に	し	つ	む	や	虫	の
聲											
怒	風										
虫	と	も	の	哀	を	つ	く	す	夜	中	か
な											
勺	空										
猶	あ	は	れ	撰	の	こ	さ	れ	し	虫	の
こ											
貞	寶										
行	水	の	捨	所	な	し	虫	の	聲	鬼貫	
虫	の	音	の	中	に	咳	出	る	寢	覺	が
な											
丈	草										
む	し	の	音	や	關	宿	船	の	鹿	采	の
中											
養	浩										
虫	か	り	や	む	さ	し	野	に	手	の	置
所											
鳥	醉										
ぬ	け	か	ら	と	並	ん	で	死	る	秋	の
蟬											
丈	草										

# 人形病院及人形供養

帝國幼稚園長 西山哲治

## 日本は人形國

私は餘程以前から人形といふものに興味を持つて居ましたが、最近になつて、人形の教育上に及ぼす影響といふやうなことを主題として、研究の歩を進めて居ります、これは追つて一冊の單行本として發表するつもりであります、茲にはしばらく、その研究の一部をお話してみることに致します。

先づ、私は日本の國は人形の國であると思ひます、何故かと申しますに、西洋諸國の人形と比較してみますに日本の人形の方が種類が多いのであります。第二に日本の人形は美術品としても進歩した立派なのがあります。第三に日本の人形は製

法が進歩してゐて、却て精巧なのがあります、第四に人形の取扱に於て日本は一番進んで居ります、三月の節句、五月の節句の如き、人形を主とした趣味ある祭は外國にその例を見ないのであります。

以上の四つの點から、私は日本を人形の國と言ふのであります。

人形と教育といふ問題に關しては、かの亞米利加の心理學者スタンレー・ホールが「人形の研究」といふ四五十頁の論文を發表してゐる他には西洋にも太した研究がありません、日本にないことは言ふまでもありません、たゞあるのは雛遊びなどに就て習慣を習慣として傳へたもの、人形の構造や由來を説いたものだけで、教育上の立場から取

扱つたものは一つもありません。

## 帝國人形病院

私は十年程前から、この方面に注目して居りましたが、大正二年の秋に人形の病院をつくつて、帝國人形病院と名けました。子供は人形を生命いのちのあるものとして取扱つてゐます。この取扱を擴張すれば、手のとれた人形、毛髪の抜け落ちた人形等はよろしく入院して手術を受けるべきであります。これは子供の道德教育、感情教育の一部として、是非行はるべきであると私は信じたのであります。私の人形病院は幸ひにして世間から有効に利用されて、今日までに入院患者は随分澤山ありました、而して遠きは支那の北京、上海あたりからも頼まれることがあります、支那人で申込んで来た人もあります、それは吳宣枝といふ婦人で日本の人形を三個送つて来ました。何しろ、大正二年から今日までに三千に近い人形を入院させまし

た。大小、時代、産地等に於て、是等の人形はいづれも違つたものであつたことは言ふまでもありません。今、患者名簿を繰つてみますと、次ぎの如き名士がその人形を我が病院に托されました。

中橋徳五郎(西洋人形五本)、吉川伯爵(三本)、澤柳政太郎(西洋人形と五月人形)、内ヶ崎作三郎(日本人形と西洋人形)、桐島像一(三つ折の日本人形)、安川清三郎(三本、内一本はスプリング仕掛にてお腹を押すと「マ、ア」と言ふ)、松平子爵(十本)、小川平吉(天津人形)、有馬伯爵(古代人形三本)、戸澤子爵(五本)、西園寺八郎(七本)、綿引醫學博士(七本)、水野子爵(木彫の人形二本)、小笠原伯爵(西洋人形九本)、小林富次郎(日本人形一本)、安田善三郎(日本人形の大きなもの二本)、小池國三(西洋人形三本)、長田秀雄(支那人形二本)、鍋島子爵(五本)、岩崎家(十四本)人形病院に入院すると、大抵原價の五分の一乃至三分の一位の費用で全快します。

帝國人形病院は赤ん坊展覽會と共に帝國小學校の二つの附屬事業となつて居ります。

小さい人形の手、足、首のとれたの、禿頭病、美顔術は二三錢の手術料でなほるのです、首無し人形には四錢位で首をつけて生命を與へてやります、三月人形的美顔術を施して五錢の手術料などは安いものです。生徒は毎朝次の歌を合唱します。

かあさまく私のかあい、人形がきのふから  
どうしたことが手をいため痛いくと泣きま  
する

まあかあいそにかあいそにそれでは人形病院に  
入院させてなほすやう早くお願なさいませ

あらうれしいうれしいうれしいのあんな手なしの人  
形が

けふは私にだつこしてにつこと笑つて居りま  
する (譜は國定教科書の「私の人形はよい人形」の譜)

## 人形と子供の心理

子供が人形を喜ぶ時期は幾歳頃から始まるかといふに、男兒、女兒の別なく、二三歳になると皆人形を持つことをよろこぶやうになり、四五歳になると、人形を自分の友達として一緒に遊ぶやうになります。女兒は五六歳から十二三歳までの間に於て、一番人形を愛好します、つまり幼稚園の女兒及び小學校の女生徒が一番人形を好むといふわけになるのであります。男兒は八歳位になると人形は女の持つものであるといつて、他の玩具に興味を移して、人形を顧みなくなりませう。帝國小學校の女生徒五十名に就き、人形に關する智識を調査いたしました結果を、少しく次ぎにお話しいたしませう。

「人形を持つてゐますか」といふ問ひに對して全生徒が「持つてゐます」といふ答をしました、中一本持つてあるといふのが五人、二本持つてあるもいふのが八人、三本が七人、四本が五人、五本が三人、六人が二人、西洋人形を持つてゐるとい

ふのが十三人ありました。

「人形にはどんな着物を着せますか」との問ひに對して、メリンスの着物を着せると答へたものが十六人、縮緬が七人、和服を着せると答へたものが六人、洋服を着せると答へたものが十二人ありました。

「人形に何といふ名をつけましたか」といふ問ひに對して、花子が十人、君子が二人、百合子が二人あや子が二人、ふみ子が二人、きよ子が二人、つゆ子、はま子、よし子、たま子、とき子、京子がそれ／＼一人づゝ、西洋人形に佛蘭西流にスザンとつけたもの、英吉利流にメリーとつけたものなどもありました。

「人形は何を食えますか」といふ問ひに對して御飯と答へたものが九人、お菓子が十七人、御馳走が七人、西洋人形に麵麩を食へさせると答へたものが三人、牛乳を飲ませると答へたものが五人（是等は人形を赤坊として取扱つたものでありま

す、食べませんと答へたものが五人ありました。

「人形は眠りますか」といふ問ひに對して、眠ると答へたものが二十人、眠らないと答へたものが十人、西洋人形なら眠ると答へたものが五人ありました。

「人形は何をしますか」といふ問ひに對して、飯事遊びのとき、赤ん坊になると答へたものが十人、泣くばかりと答へたものが三人、手足を動かすと答へたものが一人、寝たり起きたりすると答へたものが一人、お客様になると答へたものが一人でありました。

「人形の病氣にはどんなのがありますか」といふ問ひに對して、怪我をするが十二人、手足がとれるが八人、首が飛ぶが三人、頭の毛が抜けるが三人、眼が痛みます、泣かなくなり、耳がとれますが各一人。

## 人形は生きもの

「人形は生きてゐますか」といふ問ひに對して一  
緒に遊ぶときは生きてゐると答へたものが十八人  
あります。

「人形は死ぬことがありますが」といふ問ひに對  
して、死にますが五人、こわれて死にますが四人、  
飯事の時お葬式もしますと答へたものが三人。

「人形は學校に行くか」といふ問ひに對して、行  
きますと答へたものが十二人、行きませんと答へ  
たものが十人、怪我をしたら學校の人形病院へ行  
きますと答へたものが八人。

「人形にもお友達がありますか」といふ問ひに對  
して、ありますと答へたものが八人、私がお友達  
になりますと答へたものが十人。

「人形を教へたり、叱つたり、賞めたりすること  
がありますか」といふ問ひに對して、唱歌を教へ  
たが九人、氣に入らぬ時叱りますが七人、可愛い  
時に賞めますが九人、はばかりを教へて賞めまし  
たが三人（これも人形を赤ん坊と見て、おし、つこ

や何かを教へたから賞めてやつたといふのです）  
着物をよく着ないから叱りましたと答へたものが  
三人ありました。

「人形は行儀がいかわるいか」といふ問ひに對  
しては人形は皆大層お行儀がよろしいと異口同音  
に答へました。

「人形は可愛いものか、憎らしいものか」とい  
ふ問ひに對しては、矢張皆可愛いと答へました。  
但し安い人形はへんな顔をしてゐるから可愛くあ  
りませんと答へたものが一人あります。

「人形にどんな世話をしますか」といふ問  
ひに對して、着物を着換へさせてやりますが十五  
人、お風呂に入れてあげますが七人、髪を結つて  
あげますが五人、散歩に連れてゆきますが六人、  
公園に連れてゆきますが三人、着物を縫つてやり  
ますが五人、教會に連れてゆきますが三人、學校  
に連れてゆきますが五人、遊ばせてやりますが三  
人、襦袢おひつをあてゝやりますが二人、おんぶします

が二十人、だつこしますが十八人、抱いて癡かせますが十六人といふやうな答へ振りです。

「人形はどんな心を持つてゐますか」といふ問ひに對して、愛らしい心と答へたのが十二人、やさしい心が七人、子供らしい心が五人、よい心が三人、うつくしい心が二人。

### 人形は少女の手に生く

以上の調査によつても分る如く、子供は人形を生あるものとして取扱つて居るのであります。そこで私は「人形は少女の手に生く」といふことを言ふのであります。その意味は人形が人形屋やおもちや屋の店頭に並んでゐる時は未だ生あるものとは言はれないのであります。一たび少女の手にわたると生命あるものと化するのであります。少女は人形に生命を吹き込んでこれを自分のお友達とし、兄弟とし又赤ん坊とするのであります。

人形と子供の關係が斯くまでに密接なものとな

つて來ますと、人形の病院の必要といふことは當然のこととして肯定されるのであります。而して又入院して手を盡してみたが何うしても快復の見込のなくなつた人形のために、これを葬つてやり、又供養をしてやることの必要も起つて來るのであります。それで私のところでは先日人形供養といふことを行ひました。人形供養の詳しい模様は次號でお話し致します。 (未完) (文責在記者)



# 幼稚園に於ける談話の使用法について

アトウッド氏「幼稚園の理論と實際」

(Atwood's Kindergarten Theory and Practice) より抄譯

東京女子高等師範學校  
附屬幼稚園保姆

小 高 つ や

時代と國の如何を問はず、一般に子供を喜ばせ得るものは、何れも其の中に價值あるものを有して居る。何等かの方法によつて子供の個人性の發達に役立つものであると云ふ事はかのフレーベル氏も云つて居るが、これは實に尤もな論である。それ故フレーベル氏は或る玩具、例へば毬とか人形とか云ふ様なものは、いつの時代にも、子供に對して共通普遍の樂しみを與へて居り、明らかに教育的價值を有して居るものであると信じて居つた。同様に目立たない、隠れた方法で、時代から時代へと傳へられて來て居る傳統的遊戯は、それが初めに持つて居つた儘の價值をもちつづけて居

ると云ふ事のために、今迄存續して居るのである。「物語」は上述の種類に屬するものであつて、その上其れ自身の中に、善い要素をもつて居るので幼児教育に貢獻するのである。それ故我々は、幼稚園に於てはお話が保育課程の中で重要な位置を占めて居ると云ふ事に就て少しも恠しまない、否寧ろ、もしそうなつてゐない時こそ我々はそれを奇としなければならぬ位である。

## 一、おはなしの役目

民族の發達の上から考へて見ても、種々の形式をとつてあらはるる物語は、なかく重要な部

分をなして居る。昔時の彈唱詩人——(註、歐洲に於て王侯將相などの功績をたゞへる歌を作り、琴を弾じながら、之をうたふ事を職とせし人)——は實に立派な「はなし手」であつた。また、古人の敘事詩は、今日、我々が模範とすべき作物である。物語を好むと云ふ事は、幼兒にのみ限られてゐるものではない、即ち物語は廣い又精密な形式によつて多數の青年や大人をも、その魔力で捉へて居るのである。

フレーベル氏は『子供がお話を愛好すると云ふ事は、そのお話が、いろ／＼の形をとつて子供自身の小さい生活の經驗を表現するためである。而かも其の小さい生活は、子供には、幾分ほんやりと了解されて居るのであるが、しかしまだ／＼自己をおさへる事をしらない生活をして居り、且つ言葉の數にも制限があり、多くを知らぬ子供達の事であるから、未經驗のその表現を實に慕ひあこがれるのである』と云ふ事を信じた、愛情とか、

同情とか、誤解とか、誘惑や惡習慣と戰ふ事とか英雄的冒險とか、自分の我儘な心と戰つて克つ事とか、かうした事柄は、物語殊にお伽噺の中に見出されるのである。お伽噺は子供が自分の思ひ通りの世界を持ち來さうとして試みる未熟な計畫のヒントとなるものである。恰も立派な小説が我々大人に人間の心の共通な歴史をおもはしめる如くよく考へられたる童話はまた子供にこの歴史の始源をおもはせるのである。大人の鈍い想像力をもつて見れば、お話はつまらない曖昧なものに見えるが、子供にとつてはお話は、實に、命と活力と真理とに充ち／＼て居るのである。何となれば、これらお話は、子供のいろ／＼の經驗を暗示し、又時に困難な事についても道を示してくれる、實にお話は子供の生き生きと發達して行く靈に、他では見出す事の出來ない滋養物を十分に與へるのである。

幼稚園においてお話を用ふる主なる理由は此處

にあるのである。

## 二、お話の實際的價值

Wordsworth's Personal Talk.

我等の慰めも我等の幸も其處に生ひ立つ。

お話が子供にとつて、如何に價值あるものであるかと云ふ事を、一層實際的に説明せよと望む人々に對し、我々は更に附け加へて云ふ事が出来る。即ち「おはなし」は子供にとつては、文字の始源である。適當に選んだ「お話」は第一子供が好きになる。従つてよき文學に對して興味をもつ様になり、これはやがて書物を好むと云ふ事に導かれて行く。實際書物を愛好すると云ふ事がなければ我々の靈は、たゞ空虚なものとなつてしまふ。これあるによつて人間の心が孤獨にもならず、又決して友を失はぬのである。

夢と書物、何れもこれ一つの世界。

そは有形の世界にして純且つ善。

そをめぐり肉と血の蔓は上りゆく。

またお話によつて、子供は語彙を増し、發表の基礎をつくつて行く。且子供がよい行爲をするためにも、また一層價值のある理想的の生活に向つて、たへず進んで行くためにも、直接の手段となる事は云ふ迄もない。ことにお伽噺はよい行爲する様に導く上に貢献する所が多い。即ちお伽噺は明瞭に簡單に、例へば貪慾、不正直、殘忍、粗暴などの習慣が如何なる結果を來すかを示し、同時に其反對——寛大、正直、親切、禮讓などが——如何に美しいものであるかを明らかに示すのである。

## 三、材料選擇上の二つの誤

お話を選ぶ場合になると、保姆は實に隨意にまた豊富な材料を見出す事が出来る。古典クラシック的なもの、

神話、傳説、お伽噺などが一方から我々を誘ふと  
また、他方には、實に玉石混合の近代の物語が非  
常に勢で、我々の選擇を要求して押しよせて來る。

この豊富な材料を取捨する時に、保姆があまり  
氣にとめない二つの危険が潜んでゐる。即ちあま  
りよい話が澤山あるとこれを矢鱈に時間割の中  
に取込んで澤山話をきかせすぎて、そのために子供  
を謂ゆる心的消化不良に陥らしめる事がある。ま  
た今一つは、保姆がしばしば幼稚園時代の子供に  
はわからない話をしてきかせる傾向がある。そし  
て十二三才の子供の有する同化力を幼稚園の子供  
に要求したりする。實に感じのよい話で保姆自身  
が大好きなものであると、子供に話さずにいられ  
ない、しかも其話が劇の様になつて居ると、實際  
話してゐる中に子供の注意をひく。そこで先生は  
充分に幼児がその話の意味を呑込んだものと思つ  
てしまふ。然し實際は其話の有する「美しさ」と  
「眞實」とは少しも子供には解らず、只、子供は、

そのお話の外側にある殻とでも云ふ様な所を掴む  
にすぎない事がある。

これに由つて、保姆は二つの目的を無効にして  
しまふ。即ち保姆自身が直接無駄な努力をして居  
ると云ふ事は勿論、更に子供が成長して小學校へ  
行く様になり、今度は其話が充分分かる様な年齢  
に達した時に、小學校の先生はその同じ話を話さ  
うとする。この時既に幼稚園の時に一度聞いて居  
ると——わけもわからずに——折角の美しい話も  
その生き生きした光彩をうしなつて居るから、小  
學校の先生の努力も無駄になる。「私達はそのお話  
はもう幼稚園で聞きましたよ!!」幼稚園の時期よ  
りも數倍、心力の發達せる小學校時代に、折角、  
先生が子供の要求にあふ様にとつて、選んだ話  
をしはじめると、四年生の兒童から、かうした厄  
介な挨拶を受ける事がある。

保姆は「お話の選擇」と云ふ事に於ては賢明な  
辨別をすべきである。昔からあるものでも、又近

代のものでも、「子供のために書かれた話」の大多数は、我々が幼稚園で接する未熟なる年齢のもの——即ち幼兒——には適當でないのである。例へば、かの有名なインツプ物語でも、あの澤山ある中で、四才乃至六才の兒にわかるものは、僅かに五つか六つを出ない。一般に神話、又は多くの傳説についても、同じ事である。勿論これには個人的除外例——ある子供は特別にわかるかもしれない——はあらう。しかし先づ普通の幼稚園の子供については、上述の事が云へるのである。しかし昔からあるお伽噺の寶庫は實に保姆にとつて、一層研究する價值があるのである。

またアンダーセンの美しいお伽噺、あれはほとんどすべてが幼兒によりも、もつと大きな子供のために書かれたものである。

ハリソン氏の「お話の國」の中にある「小さなベタと、びつこの巨人」及び「ハアウエダ王」などは、念の入つた象徴主義を表してゐるので、幼兒

には高尚すぎる。實際ある幼稚園で、この話をした結果、その不適當な事を證明してゐる。

またリチャード夫人の面白い實話『金の窓』もその一つ二つをのぞいては、先づ幼兒よりも大人に適當なものである。

ある場合には、お話の原形を變へて、子供の智力にあふ様にする事も實際ある。けれど、これが賢い方法であるか、どうかは未定の問題である。

短篇物語は短いながら、一つの完全な、或は少くとも、優良な標本として、つくられて居るのであるから勝手にちぎれ／＼にして、之を損ふべきものではない。何故保姆諸君は今わからない話をそのまゝ取つておいて、充分わかる時期に受持の小學校の先生方に、之を譲らうとしないのであらう？ 恐らく、保姆として長い經驗をもつて居る大抵の人達が、まだ初めの頃には子供に上述の様なわからない話を澤山して聞かせた事であらう。實際先生は自分がよい話と信じ、又大好きである

から、非常に上手に、子供達に話す。子供等は夢中になつて聞いて居る。そこで先生は子供はきつとその話の美しい點も、眞の意味もとらへ得たものと思つてゐる。扱て他日「幼兒は決してかゝる難しい話の眞意を捉る能力を有して居らず、且つ豫期した様な理解力までには、まだく幼兒期には達して居らない」と云ふ事を認めた時に、『何故あの時、あの様に注意して聞いたか』と云ふ事が、寧ろ不思議に思はれるのである。其難しい話から幼兒は何か心的内容を得たであらうか。もし得たとすれば、それは彼等の未熟な智力に相應する様に、無理にこぢつけたものではあるまいか。或はまた、かの『ヘレナリツターの目覺め』の中にある小さなダビトの様に、保姆が何度顎を動かすかを數へる事に一生懸命であつたためであらうか、——それであれ程までに注意して居たのであらうか——。

實際「童話」の大部分は、幼稚園の時期の子供

よりも、もう少し大きな兒童のために書かれて居るものが多い。けれども、さりとて、我々は失望する事はない。尙、充分に選擇の餘地をもつて居るから。『子供の心に重荷を負はせ過ぎてはならぬ』と云ふ事を、我々は常に忘れてはならぬ。『よいお話』はくりかへすがよい。子供の「お話」に對する愛好心はその話に親しみがつく程、増して來るのである。あまり澤山の話の子供に提供する時は子供が變化を要求して、飽きたりない様な慾——したがつて心に落ちつきがなくなる——誠に望ましからぬ慾をおこす様になる。

#### 四、よき話の重なる性質

如何なる性質の話が、幼稚園時代の年齢の子供の要求にかなふものであるかを暫く考究する事も、我々に必要な事と思ふ。かくて我々は「生活」の選擇に都合のよい「お話の研究」について一つの手引が得れる。

幼稚園期の子供は、原始的な要求、原始的な感情又原始的な經驗を取扱つて居る。「話」を注文する——即ち幼兒自身の生活が原始的である——。

幼兒は入込んだ仕組を掴む事も出来ず、またある近代のお伽噺が要求する様な、精細な分析をする事も出来ない。彼等の要求にあふものは、其想像に直接訴へ得るものでなければならぬ。即ち反動が即時に来るものでなければならぬ。子供はある到達せんとする目的に行くに、迂回した道を通つて行く事には少しも興味を起さない。且お話は活動に富み簡単な勢のある言葉であらはず事が大切である。「反覆」並びに「直說法」この二要素は、たしかに幼兒にはなす理想的の話の備ふべき特性である。かの昔からある有名な「三匹の熊」「三匹の小豚」「小さい赤い牝鶏」の如きは、幼稚園時期の、子供に話すべき完全な話としての、すべての必要なものを巧みに組合せて居る、——即ち活動的である事、仕組の簡単な事、單純で、勢

のある言葉、反覆と直說法である事。かかる話は昔から今まで、子供部屋で繰りかへしくかたり傳へられたるもので、子供の心の直接の訴へに満足を與へると云ふ所から、其の話が存續して居るのである。實にこれらの話の作者は幼兒をよく了解して居つた。

グリム兄弟によつて、集められたお伽噺のあるものは殆ど理想的に極く小さい子供に話すのに適して居る。

子供のした事をはなす簡単な英雄譚及び殊に動物の勇敢な物語などは、子供に歡迎される。滑稽談の中でも、その滑稽が直接あらはれて居るもの——換言すれば、むき出しの模寫をしてゐるもの——は子供の要求にかなふ。けれども其滑稽が、あまり精巧なものになると、全く幼兒には、其面白がわからない。

人間生活に於て「滑稽味」の必要をみとめて居る人は皆時々滑稽談を取り入れる事の値打がわか

るであらう。實際「滑稽味」は我々大人にとつては、安全瓣の様なものである、眞底しんぞこから笑ふと云ふ事は、兎に角よい事であるから。

之に反して歴史譚は幼稚園期の子供には適しない。平均してこの時期の子供は「永き時代」と云ふものを了解しない。且つ譚を媒介として之れによつて、彼等を歴史の場面に引き入れ様と企てるのは「時の」上からも、又「よい材料」の上からも、非常な浪費になつて了ふ。自然界の物語は——その目的が自然界に關するある事實を教へると云ふ事にあれば——丁度ホメオパシー（註、これは病源を以て病氣をなほす法で、例へば下痢をなほすのに健全體に與へれば下痢をおこす様な薬をあたへるのである）を與へる様にすべきである。（子供が直接經驗した時に其經驗材料をとらへて適當に話すがい）幼児に自然界を知らせるのには「話す」よりも、先づ彼等を直接自然と觸れさせて、それによつて自然界の智識を得る様に仕向ける方がは

るかによい。しかしまた幼児の有する範圍内で、説明出来る事實の話もないではない。動物の生活状態を氣持ちよく模寫して居る話も、澤山ある。そしてこれは子供を非常によこばせ又利益になるものである。

幼稚園では道徳の話——其目的がある必要ない教訓を力づくよく云ひあらはさうとする場合に——を殊更にする餘地を持たない。實際我々の用ひて居る凡べての話は、皆道徳的價値を有して居ると云ふ事が出来る。お話によつて幼児の心に植ゑつけられて行く眞理は、古めかしい道話——かゝる話とはかく成程と合點して、それに引きずりこまれるよりも、反つて反抗心を起させ易いものであるが——よりも効果のあるものである。

## 五 話し方に就て

幼稚園では、お話を幼児に讀んできかせると云ふ事よりも、話はなしてきかせかせる方が習慣となつて居



るが、この期の子供には特別な場合の外はどうしても「話す」方が一層よい方法である。お話は「親しみ」をつけるものであるから、話して聞かせると云ふ事が「讀む」よりも一層子供と先生との間柄を近くする。「話す」事であれば、先生は話して行く間に、子供達の直接の要求にかなふ様にも出来、又容易に戯曲的にも、寫實的にもして行く事が出来る。かうすれば、一層よく子供の注意をあつめ、興味を起させる事になる。一體「お話」は親しみを作るものであるから、先生のまはりに集める子供の数は、なるべく少くすべきである。幼稚園全體の子供を一室にあつめて、大きな輪をつつて座らせて、そこで話を聞かせやうなどと思ふのは、それは先生の大間違ひであると思ふ。實際かゝる方法で話してゐる保姆を見ると、氣の毒な感じがする。この方法で幼兒全體の注意を集める事が出来るなどと云ふ事は殆どない事である。

大きな輪をつくつてゐる子供達の、保姆から最も遠い所に居る子供にも、話の聞える様に、またごく手近に居る子供の注意も集める様に、しかもまた年少な彼等の興味を引き入れて、且つお話の微妙さをも掴むやうにと、斯くの如く多方面に努力する人を見る事は、傍觀者には全く苦痛な事である。

何處の幼稚園にも、年齢のいろ／＼なまた心的發達の種々の段階にある子供が集つて居るわけである。しかるに談話にせよ、恩物遊びにせよ、作業にせよ、一つの事を彼等全體の望みになはしめやうなどと企てるのは、誠に不合理な事である。幼稚園でする仕事は子供一人一人に適當するものでなければならぬ。そこで「お話」もいろ／＼の子供のさまざまの興味と望みに適ふ様にと云ふ事を心掛けて選ぶべきである。この目的を達するためには、先づ子供全體を其能力に應じて、二つにも三つにも、またこれ以上にも、幾つかの

組にわけ、各組に適するやうに選擇した話をはな

すと云ふやうにするがよろしい。この方法にすれば、子供が喜び、且爲めになるのみならず「話し手」たる先生も、その組に適當な話をするに云ふ事で、また樂しさが増すものである。話をするに云ふ事は、先生の側にも樂しいものでなければならぬ。「お話」は實に保姆と幼兒との間の親しみの深い關係をつくるものであるのに、それが幼稚園の時間割の中の一つであるから、しなければならぬと云ふやうな義務的な、また少しも、形式的な考へでするやうになれば、「お話をする樂しさ」はなくなつてしまふ。

従つて次ぎに起つて來る事は、同じ一日の中に、いろ／＼異つた話が、それ／＼適當した組の子供に話されると云ふ事である、一つの話を選んで、それをどの組の子供にも強いると云ふ習慣は、丁度一都市のあらゆる幼稚園の子供に、一定の日に一つのきまつた話をする習慣が有害であるやう

に、誠にいけない事である。

我々はこの後者を實際目撃した。そしてこの誤れる教育法にしたがはねばならない先生と、またそれを強いられる子供達と、どちらに餘計同情してよいかわからなかつたのである。例へば、ホーレスマンの教員養成所にある幼稚園の子供の望みに誠によくかなつてゐるお話でも、それを、もし東海岸の外人の子供——せまくかぎられて生活してゐる人々——に話したならば、これらの子供の心には、一向力づよい影響をあたへず、かへつて集注力を害し、子供を不注意にする直接の手段となる事であらう。

お話をあまり好まない子供があるとすれば、それは彼等の想像を激動し、精神をやしなふやうな話を聞かせないからと云ふよりも、寧ろ、彼等の望みに一層かなつた話をしてやらないためである。望みにかなつた話とは、子供を全く知らない世界につれて行く様な話——例へば丁度一度も海

圖をみた事もなく羅針盤も知らない人が、思ひもよらない所につれて行かれて氣も遠くなり、遂方にくれてしまふやうな事である——でなしに、幼兒自身の生活を通じてよく解し得るものであり、話をきいてゐて、勢づけられ、元氣になる様なものである。

お話をすると云ふ事は一つの技術である。或る人は生れながら、この技能をもつて居り、又ある人は絶えず努力することによつてこれに熟達する。誰でも保母は「話す事」に於ては一つ技術家でありたい。かく云ふ事が不可能ならば、すべての保母はよろしく「話す事」には一技術家たらんとして努力すべきである。この要求は決して過分のものではない。この技能を獲得するのに、何も定まつた、確固たる規則があるわけではない。それは全く大部分一人一人の獨得の人格に關する事であるから。しかし、此處に經驗あさき保母諸君のために、「如何にせばこの技に熟達するか」と云

ふ事の助けとなる點を簡單に述べて参考に資する事とする。

## 六 話の準備をなす上に

### 参考となるべき諸點

先づ一つの話を選んだならば、其全體の體裁と特色をつかむ目的で、それを讀まねばならぬ。次に其の特に目立つた點、及び其特別な様子をのみこむために、各人が必要に應じてゆつくりと、幾度も繰返してよむ事が大切である。決して言葉そのものとして暗記してはならない。「よく話す事にこの暗記位、危険な事はない。何故ならば「おはなし」は暗誦する事ではないのであるから。お話を暗記して子供の前に出る先生は實に其身を危険な位置におく人である。即ち第一忘れてしまふと云ふ事もある——これ位困る事はない——また話の途中で子供が何か云ひ出したり、又は不意に參觀人があつたりすると、すぐにまごついてしま

つて、言葉が出なくなつてしまふ。しかし話の中に出て来る詩とか或は幾度もくりかへして出て来る句などは勿論、一語一語に暗記しなければならぬ。けれども、概してお話は保姆自身のものとなり、その人の一部分をなしてしまふものでなければならぬ。そうなつて話せば、其話は生き生きとして、元氣よく盡きざる泉から、おのづから湧き出して来るやうに思はれるのである。話しに熟達すると云つても、何等外に方法も近道もない。暗記された話と云ふものは、實に器械的で形式的で、其の話のもつて居る使命を不完全にしてしまふものである。

話を自分のものにするには、先生は先づ其の主な筋を充分に呑み込んで、それから其本を閉ぢちとして話して見るがよい、出来れば聲を出して。(自分だけが其の話を興味深く傾聴して居る人であるが)次に都合がよければ兄弟でも、近所の子供でも「子供の友達」に話してきかせるがよい。身振

が必要な時に、身振をする事を恐れてはならない。實際先生は、戯曲的のつけ元氣をして見せびらかしの<sup>情</sup>居氣を出す<sup>と云ふ事は要心して避けなければならぬ</sup>けれども、同時に「戯曲的の活氣」と云ふ事の意味を知らなければならぬ。要するに保姆は種々の仕事をする所に取る所の注意深い用意周到な態度を「お話の準備」に際しても、取らなければならぬ。扱て、いよく先生が話を聴く子供を、自分のまはりに集めたならば、先づ自己意識をなくしてしまはねばならない。「サア私達の子供と一緒に暮りませう」と云ふかのフレールの標語<sup>モットー</sup>を思ひ出すがよろしい。かうなれば、たとひ話をしてゐる最中に、園長がはいつて、來やうと、文部省の役人が參觀に來やうと、又子供が突飛な事を云ひ出さうと、先生は一向妨げられずに話す事が出来やう。「話」と、それを話す先生とが一體になつて居れば其處に何等恐るべきものはない。この幸な境涯には、なか／＼一度や二度

話した位では、達せられるものではない。けれども、この理想に達しやうと怠らずつとめたならばやがてこの境涯に入る事が出来る。

「お話をする事」と關聯して先生が正しい國語を使用する事が必要であると云ふ事を忘れてはならない、不注意な發表や下手な發音をしない様にならず氣をつけなければならぬ。子供は實に模倣者である。彼等は驚くべき熱心をもつて先生の言ひ振りや、音聲の調子や、發音を、我がものにしやうとするのである。よい文學をよむ事は、正當な國語を用ふる主な助となり、また文學の價値を鑑賞する事から云つても一番よい方法である。けれどもよい國語を使用するのも、明瞭な發音をするのも、それは習慣が最大の要素となるものであるから、先生はこれらの點に於てよい習慣をつけるやうに心掛けねばならぬ。

ノラ、スマミス嬢は「話し方」について、實によい處方箴を我々に與へて居るから、次に記して見やう。

「純粹な文學的の趣味を一筋——筋とは藥をはかる計量器の度盛を云ふ——身振と圖解とを二筋。戯曲的活氣を三筋、雄辯と明瞭な發表とを四筋、これに「氣轉をきかせる事」と「思ひやり」とを一撮ツマビ加へる事」と、

氣轉をきかせる事、即ち先生自身が話しをきいて居る子供達に合ふ様にし、又子供の特別な要求を見出すやうにして、其話が子供に適する様にし行く事は、「話し方」に成功する上に於て、最初の、また、なくてはかなはぬ事である。かの生れはがらの「話し手」——生來話の上手な人——は、たしかにこの賜を授つて居るのである。

「お話の内容と其精神とに對して同情する如く、子供の氣分と生活とに對して思ひ遣る事はまた肝要な事である。話しの上手な人」は必ずこれが出るのである。我々自身が面白くも思はず、鑑賞も出来ないやうな話をしやうとするのは實際間違つてゐる。全くあなた自身が没頭する事の出來な

い様な話にあなたの生命をうちこむ事の出来る筈がない。この事は實際、外部からの權力をもつて「これ／＼の話をせよ」と命令された幼稚園が幾度も例證して居る事である。これは談話の技術の發達には、ほとんど致命的の不幸である。

お伽噺を選ぶ時に、ある場合には、その話の美點及思想をおかさなない程度で、子供の理解と興味に一層かなふやうにするために、極めて僅かの變化を必要とする事がある。例へば「蛙の王様」の話で、其終を幸福なる結婚で結ぶよりも、再び子供が自分の家、両親のもとにかへつて幸福になると云ふ事で結ぶ方が一層よい。結婚問題は幼稚園の子供には一向興味がない。之に反して離れてゐたものもとにかへると云ふ事は彼等の生活にとつて實に生き生きした經驗である。それ故かの「シンデレラ」の話などは、幼稚園の時期にせずにもつと後までとつておく方がよい。我々は繼父母を常に悪しき憎むべき傾向をもつものの如くに、模寫する。慣習を批難する人々と實に同感である。この繼父母繼子の關係に就て斯る種の「お話」の語

つてゐるところは決して眞實ではない、老人に聞いても皆同様に答へるであらう。先生の「思ひやり」氣轉をきかせる事「正しい判斷」を働かせれば、かゝる種類の話でも子供に適する様にする事が出來やう。

お話をする時間は、幼稚園の一日の中で、一番樂しみな時の一つになつて居る筈である。この時にこそ、子供の想像を盛にし、その精神にふれる事が出来る。この時こそ、子供によい暗示を與へる。大切な機會である。——よい行爲をするやうに獎勵する爲めにも、眞のお伽噺を誘ひ込むやうにこまかく話す事によつて、人生の理想を暗示する爲めにも。

「昔々ある時」と云ふ言葉は、實にあらゆる幼稚園に於て、幼兒の眼にあたらしい光を生ぜしむる魔法の言葉である、實に理想の話は子供の心的、道德的の、主調音をなすものである、我々は皆が本當に力と判斷とをもつて、この理想的話を如何に用ふべきかを知る事を切望するのである。

# 子供を通じて

東京女子高等師範學校  
附屬幼稚園保姆

坂 内 み つ

新入幼児が、生れてはじめて、親の手からはなれて、數時間他人の中に生活する事になつて、二三日を経過して或る日のことであつた。いとしい子を他人の手に托し兼ねて、あれこれと世話をやいて居た一人の母親が、幼い子をおんぶして私の耳のそばに来て小聲で言ひました。

『たみ子さんとは手をつながないやうにして下さい。あやまちがあるとみんな宅のしん子の罪になりますから。おばさんがおきついで。』私は深くも氣に止めなかつたが、兎に角く要求さるゝまゝに、二人ははなして置いた。それから五六日後のことであつた。

『如何で御座います。時三は亂暴で御座りますから出さへすれば、たみ子さんと喧嘩ばかり致し

まして。たみ子さんだつてよい事ばかりではないのですが』と一人の母親が私に言ひつけた。その日はたみ子の欠席の日であつた。其時はもう或るものが私に成程とのみ込めた。そして私はよい刺戟劑を得たのである。

三人は一軒おいての隣り住居。大きな聲で話をすれば、三軒共に聞えると云ふ目と鼻との間である。入園前には、三人近所から來るのであるから仲よく遊ぶに違ない。三人は相手なしでも遊び得ると期待して居ただけに、入園後の現象のあまりに極端に期待に反するのに驚かされたのである。

しん子は或日、きれいな花菖蒲を持つて來た。勿論、買つて來たものである。一體當園は凡ての寄附を一切斷つて居るが、庭に咲いた花を室の裝飾

用にもつて来てくれた時は、其清き心を無にしな  
い爲に喜んで貰ふのである。實際、草花の盛んに  
咲きほこつて居る廣い庭のある家が多いので、斯  
ういふことは屢々ある。しかし今のはたしかに買  
つて来たのである。私は考へた。しかし折角持つて  
来たのであり、又しん子の家は物質上豊かなのを  
知つて居るから快く受けて置いた。處が驚いたのは  
翌る朝である。見るからに勝氣さうなたみ子の  
おばあさんは、しん子に負けるもんかといはんば  
かりに、芍薬を澤山たみ子に持たせて、これ見よ  
がしといふ具合に差出した。私は直ぐ、また始ま  
つたなと思つたが之れも快く受けた。それからち  
一ヶ月たつた。時三の母がきれいな大東の花をも  
つて来た。おくれましたが品物は先きの二人に負  
けませぬといつた風の心持はすぐに讀み得られ  
た。

女三人よれば何とやらいふ。まして勝氣な女が  
三人集りて、角つき合をして居るのだから堪らな

い。しかも子供は同年で二人づゝある。相當に修養  
された人でも、同じ位置の仲間に、眞から同情を  
よせる事は困難な事である。それが同じやうな人  
の勝氣が三つぶつつかつては堪つたものでない。  
近所の人の話がいつとなし私の耳に入つた。

『近頃小金持になつたと思つて威張つて居るがま  
けるもんか』と子供が着物一枚着かへても、目に  
角を立て、まげじと着換へさせる。一方では又

『高がたゝき大工のくせに、新銘仙ぢやないか』  
時ちやんのなんか、糸織も糸織ゴリゝだ。新銘  
仙と糸織と一緒にされてたまるもんですかい』

『家の中が照り輝いたつて、何になる。妾のくせ  
にいやにすまし込んで』などと互に悪口を言ひや  
つて居る。よせばよいのに、間に居る駄菓子屋の  
かみさんが仲に立つて、兩方の悪口の取次をする  
のだから、仲はいよゝゝ悪くなるばかりである。

幼稚園ではそれをどう調和させればよいか。神  
経質に考へると、親達に話をするにも、顔色から



同じにせねばならず。お歸りの挨拶一つにも厚薄があつては不和の種子になる。何の彼と小さな小さくならぬ様な事々にも注意せねばならぬ。けれども、こんな事を始終念頭において、却て其空氣を濃くするばかりである。寧ろそれ等の事は一切無頓着に口にも出さず、色にも見せず。たゞ三人の幼兒が仲よく遊ぶやうにと、私は斯う信じて、その爲に特別な苦心もし工夫もして見た。

一年たつた。三人の子供は大の仲よしになつた。三人の中一人が一寸でも見えぬと大變である。

『先生、時三さんが居ませんよ、たみ子さんはどこに行きました』と大騒ぎである。始終手をとり合つて遊ぶ。放して置いても、何時の間にか一緒に列んで居る。聞けば此頃は家庭にあつても誠に仲よく、つい喧嘩の聲などを聞いたことがなく、仲がよすぎていつでも始終三人して外で遊んで居て家に這いらない位だ。其有様を親たちやお婆あ

さんも見た。そして此の成人達が知らぬ間に笑顔になつてニコニコ挨拶し始めた。幼稚園に見えても、親たちの感情のやはらいだのがありくと見えて来た。可笑しいのは中間に居る駄菓子屋のみさんである。悪口の中次をしたといふので今では両方から爪はじきをされて出入を禁じられた。その結果は子供がおわしを遣ふ事がなくなつて、親達はますます喜んで居る。隣り同志の悪口など聞き度くても聞かれぬやうになつたといふ事である。

之れは勿論私の手柄でも何でもない。たゞ子供を通して家庭を改良するといふ幼稚園の任務の一つが果されたと思ふ嬉しさのあまり、何かの紀念にと一筆書きつけておく。

# 諸國お伽話

(左の諸篇は Eleanor L. Skinner. "Ada M. Skinner 屈氏編", Nursery Tales From Many Lands." にある)

## 狐の旅

### フレーベル會研究部

或時、狐が一人で旅をしてゐました。道を歩いてゐる中、木の切り株を見つけて、掘り出さうと思つて立止りました。すると上の方をブン／＼云て大きな蜂がとんで居ましたから、つかまへて袋の中へ入れました。それからドン／＼歩きつづけて、一番目の家へ來ました。狐はその家のおばさんに、

「一寸其處へ行て來る間この袋を預つて下さいませんか」

と、たのみました。「よございませうとも、置いていらつしやい」と、おばさんが云ひました。

「ぢや、どうぞ氣を附けて、あの袋の口をきつとあけないようにして下さいよ」

と、云て狐は出て行きました。狐の姿が見えなくなると早速、おばさんは袋の口を角すみの方から、一寸あけてのぞいて見ました。ブン／＼ブン、と中から蜂が飛び出しました。そしておばさんの家の鶏が、バクツ、と蜂をとつて食べてしまひました。ちぎに狐が歸て來ました。そして袋の中を見て、「私のクマンバチは何處いつた」と云ひました。「まあ、お客様、私が何が這入てるかと思つて一寸角すみの方からあけて見ましたら、蜂が飛び出しましたので、

家の鶏が取て食べてしまひました」と、おばさんが云ひました。

「よし／＼、それぢや、其の鶏を持って行くよ」

と、云て、鶏を袋の中へ入れて、ドン／＼歩いて次の家の處まで來ました。狐はその家のおばさんに、

「一寸、其處へ行て來る間、この袋を此處に預つて下さいませんか」

と、たのみました。

「よございますとも、置いていらつしやい」

と、おばさんが云ひました。

「ぢや、氣を附けて、袋の口をあけないやうにして下さい」

と云て、狐は出て行きました。けれど狐が見えなくなるやいなや、おばさんは袋の角すみを、そつとあけて、のぞいて見ました。バタ／＼バタツ、と鶏が飛び出しました。おばさんの家の豚が、バクツと小さい鶏を食てしまひました。まもなく狐が歸

てきました。狐は袋の中を見て、

「私の小さい鶏は何處へ行たらう」

と、云ひました、おばさんは、

「まあお客様、私が一寸何かあるのかと思つて袋の角すみの方をあけて見ましたら、小さい鶏が、バタバタと飛び出しました、そして家の豚が、それを食てしまひました」

と、云ひました。

「よし／＼、それぢや、其の豚を持って行くよ」

と、云て、狐は豚をつかまへて袋の中に入れ、又ドン／＼歩いて次の家まで來りました。狐はそこのおばさんに、

「一寸、其處へ行て來る間、此の袋を此處へ、預て下さいませんか」

と、たのみました。

「よございますとも、置いていらしやい」

と、おばさんが云ひました。

「ぢや、氣をつけて袋の口をあけないやうにして

「下さい」

と、云て、狐は出て行きました。けれど狐が見えなくなるが早いか、おばさんは袋の口をあけて、のぞいて見ました。

「クキ、クキ、クキ」と、豚が中から出て来ました。バクツ、とおばさんの家の牡牛が、豚を食べてしまひました。

まもなく狐が歸て来ました。狐は袋の中を見て、

「私の豚は何處へ行たのだらう」と、云ひました。

「まあ、お客様、私が、何が這入て居るかと思て一寸袋の中をあけましたら、中から豚が飛び出しました、そして家の牡牛がそれを食べてしまひました」

と、話しました、狐は、

「よし／＼、それぢや、牡牛を持って行くよ」

と云て牡牛を袋の中に入れて、又ドン／＼と歩きつづけて次の家まで来ました。狐はその家のおば

さんに、

「一寸、其處まで行て來る間、この袋を、此處に預て下さいませんか」

と、たのみました。

「よございますとも、置いていらつしやい」

と、おばさんが云ひました。

「ぢや、氣をつけて袋の口をあけないようにして下さい」

と云て狐は出て行きました。けれど狐の姿が見えなくなるが早いか、おばさんは袋の口をあけて中を見ました。すると、モウ／＼と牡牛がとび出しました、そしてドン／＼と遠くへ逃げて行きました。おばさんの子供が追ひかけて行て原の方でやつとつかまへました。

まもなく狐が歸て来ました。そして袋の中を見て、

「私の牡牛はどこへ行たらう」

と、云ひました。おばさんは

「まあ、お客様、何がは入てゐるかと思て、私が袋を一寸あけましたら、牡牛が飛び出しました。そしてドン／＼逃げ出しました。それで家の子供が原の方まで行て、やつとつかまへて來ました。」

と、云ひました。

「よし／＼、それぢや、その子供を、つれて行きますよ。」

と云て、狐はおばさんの子供を袋の中に入れ、ドン／＼歩いて次の家まで來ました。狐はそのおばさんに、

「一寸其處まで行て來る間、此の袋を、此處に預て下さいませんか。」

と、たのみました。

「よございますとも、置いていらつしやいと、おばさんが云ひました。」

「ぢや氣をつけて袋の口をあけないようにして下

らう。」

と云て、狐は出て行きました。

さあ、今度はどうなつたでせう。おばさんは丁度お菓子をごしらへて居る處でした。そして焼きたてのお菓子を、蒸し釜から、おばさんが出した時

「母さん、あたしに頂戴、あたしに頂戴。」

と、小さい子供達がさはぎました。そして袋の中に居た子供はお菓子のおいしい香ひをかいで、大きい聲で

「母さん、私にもお菓子少し頂戴。」

と云ひました。おばさんが袋をあけましたら中から子供が出て來ました。おばさんはその子の代りに家の犬を袋の中に入れて置きました。それからおばさんはその子にも家の子にもお菓子をわけてあげました。そして皆大よろこびでした。まもなく狐が歸て來ました。けれど袋の口はもとの通りチアンと結んでありましたから、狐は今度は誰もあけなかつたのだと思つて、其儘袋をかづいでドンドン歩いて森の處まで來ました。狐は其處へ休

んで袋の口をあけました。すると、  
「ワン、ワン、ワン」

## 小さい白兔

小さい白兔が、たつた一人で住んで居ました。  
兔のお家は、キャベツの畑のそばにありました。  
毎朝お日様が窓からおのぞきなると、兔はとび  
起きて、着物をきかへます、そして、「どれ、スー  
プをこしらへるのにキャベツを取て来よう」と云  
て出かけます。

或る日、兔はいつものように、帽子をかぶつて  
籠を持って出かけましたが、大きなキャベツがみつ  
かつたので、大急ぎで家へ歸て来ました。入口の  
戸をあけようとすると、オヤ〜、戸があきませ  
ん、そして中から鍵がかかつて居ます、兔はトン  
トンコッ〜、一心になつてたたきました。する

と、犬が飛び出して一いきに狐をたべてしまひま  
した。(ニウイングラッド)

と中から大きな聲で、「そこに居るのは誰だ。」と云  
ひました。

「私は白兔です、今、畑へ行て、スープにする、  
大きなキャベツを見つけて持て歸た處です」

と兔が答へました。すると家の中の大きな聲が、  
「私は大きな強い山羊様だ。くづ〜してゐると  
お前なんか、とびついて、三つに切て食べてや  
る。」

と、どなりました。可哀さうな白兔は、びつくり  
して逃げ出しました。途中で大きな牛に逢ひまし  
たから、早速

「もし〜、牛さん、私は小さい白兔でございま

す。今朝私がスープを造らうと思つて、畑に行つて大きなキャベツを持つて歸ると、家の中には大きな強い山羊が居ました。そしてぐづくして居ると、飛びついて、三つに切つて食べてしまふつて、云ひました。後生だから、牛さん、助けて下さい」とたのみました。

牛は大きな山羊が怖いから、援ける事が出来ないと言ひました。しかたなしに兎は、どん／＼歩いて行きますと、直きに黒犬に出逢ひました。兎は「もし／＼黒犬さん、私は小さい白兎です。今朝スープを造らうと思つて、畑に行つて、大きなキャベツを持つて歸ると私の家には大きな強い山羊が居ました。そして、ぐづくして居ると、飛びついて、三つに切つて食べてしまふて、食べてしまふつて、云ひました、後生だから、犬さん、私を援けて下さい」

とたのみました、けれど黒犬は、私は強い大きい山羊が怖いから援けられないと言ひました。又す

ん／＼歩いて行くうち、今度は赤い雄鶏にあひました。兎はまた。

「もし／＼赤い鶏さん、私は小さい白兎でございます、今朝スープを造らうと思つて畑に行きました、そして大きなキャベツを見つけて持つて歸ると、私の家には大きな強い山羊が居ました。そして、ぐづくして居ると、飛びついて、三つに切つて食べてしまふて、食べてしまふつて、云ひました、後生だから鶏さん、私を援けて下さい」とたのみました。

雄鶏も強い山羊が怖いから、援けることは出来ないといとこわりました。小さい白兎は、

「ああ、誰れも、お家から、あの強い山羊を、追ひ出すように援けてはくれない。どうしたらいいかしら、どこへ行たら、いいんだらう。」  
と、小さい白兎は泣きながら歩いて行きました。すると耳の側で、

「お早う、小さい白兎さん、あなたは、何を泣い

て居るの」

と小さい聲がよびかけました。と、見るとそれは働きの蟻さんでした。

「まあ蟻さんでしたか、私、今朝スープを造らうと思つて、畑に行きました、そして大きなキヤベツを見つけて持て歸ると、私の家には、大きな強い山羊が居ました、そしてぐづぐづして居ると、飛びついて三つに切て食べてしまふつて食べてしまふつて、云ふのです」

と、兎の話すのを聞いて、働好きの蟻は、

「兎さん、そんなに心配しなくてもいい、私が一緒に行って、援けてあげませう」

と云て、二人で小さい白兎のお家へ行きました。

入口の戸をコツ／＼たたきますと、中から、太い聲が

「ここに居るのは、強い大きな山羊様だ、ぐづぐづしてゐるとお前なんか、飛びついて、三つに切て食べてやる」

と、どなりました。

「私は蟻です。小さい蟻ですけど何でも出来ますあなた知らない中に、はいて行て、チクリと刺すことも出来ますよ」と、云ひながら、蟻はしまつてゐる戸の鍵の穴から、スツと這つて行て山羊の背中をチクツと刺しました。

「あいたた、つ」

と云て、山羊は白兎の家からとび出して、一心に向の方へ逃げて行きました。それから小さい白兎さんは自分のお家へ這入つて、今朝とつて来たキヤツベツを切て、スープを造りました。

「さあ、蟻さんいらつしやい。おかげでありがたうございました」

とおいしいスープを食べて、それから二人で一緒に仲よく暮しました。

(ボルトガル)



## 小さい〜叔母さん

或處に小さい〜叔母さんが居ました。叔母さんはお友達も何もなしで、たつた一人でお家に居ました。

或晩、此の小さい〜叔母さんは、小さい、小さいベッドに這入て寝ようとする、どこかで何だかわからない音がしました。叔母さんは氣になつてなりませんので、早速とび起きて、小さい小さい臘燭をつけました。先づ叔母さんの小さい小さいベッドの下を見ましたが、何もありませんでした。それから後の方の小さい〜入口の戸を見ましたが、そこも、どうもありませんでした。叔母さんは小さい、小さい臘燭を消して、小さい小さいベッドの中へ、もぐりこみました。そして小さい〜目めをつふつて、とろ〜眠らうとする、また音がしました。小さい〜叔母さんは飛

び起きて、小さい〜臘燭をつけました。トントントン〜、小さい〜段々を下りて、小さい小さいお臺所へ行きました。小さい〜テーブルの下をのぞきましたが何もありませんでした。それから、小さい〜ストーブの中も見ました、けれど、何もありませんでした。それから又トン〜トン〜小さい〜段々を上つて、叔母さんはお室へかへりました。小さい〜臘燭を消して、又小さい〜ベッドの中へ、はりました。小さい小さい目めをつふつて、スヤ〜と、よい心持に眠りはじめました。すると、どうしたんでせう。又音がしました。叔母さんは小さい〜ベッドから飛び起きて、小さい〜臘燭をつけました。トントントン〜、小さい〜段々を下りて小さい小さいお臺所へ行きました、そして小さい〜茶

簞笥に這ひ上つて、小さいく戸を、一寸ほんの小さい小さい位、一寸だけのぞいて見ました。すると、中から、ブツと音がしました。

「わかつた、わかつた」

と小さいく叔母さんが云ひました。そしてふしぎな事には、それつきり、ブツと云た音だけで何もありませんでした。

(イギリス)

## 小さいパン

或日、お婆さんがパンを二つこしらへやうと思つて、火ばちのあみの上に、のせて置きました。

するとお爺さんが『これはおもしろいさうなパンだ、私はおいしいパンが何よりも好きぢや』と云て、一つ、つまみました、バチンと二つに割つて食べはじめました。さうすると、オヤ／＼、も一つの方のパンが、

「つかまへたら、えらい」

と云ひながら、戸の外へころがり出しました。お婆さんがそれを見つけて追ひかけましたか、とう

とうつかまえられませんでした。小さいパンはどんな／＼ころがつて山を昇つて、坂を越えて、田舎のお婆さんが、バタをこしらへて居るお家の處まで行きました。お婆さんは丁度バタをこしらへあげる處で、子供のジャックさんは、そばで見えて居ました。お家の戸はあけつばなしになつて居ました。すると何だか、コロ／＼轉がつて、お臺所の方へ行たものがあります。

「ごらんなさい、お母さん、何でせう」と、ジャックが申しました。

「まあ小さいパンですよ、さあ、早くつかまへてこの出来たてのバターで、御飯の時に食べませう」と、お母さんも、一緒に、パンの後を追ひかけました。

ジャックはバターやミルクの入れ物を、ひつくりかへして、室中かけました、その中パンは、

「つかまえたら、えらい」

と、云ひながら戸の外へ轉つて行てしまひました。それから山を越えて、野原を通して、コロコロ走つて、水車小屋の處まで行きました。小屋のおぢさんは袋へ麥粉をつめてゐました、そして子供がそれを車につんで、町へ持て行かうと、まつてゐました。小屋の戸はあけはなしになつてゐました。すると何だか小屋の中へ轉がりこんで、大層早くクルクルと床の上を走て行きます。

「御覧なさい。あれ、パンが。早くつかまえて、御辨當にしよう」

と、おぢさんが云ひました。そして子供と二人で

パンの後を追ひかけました。ジュミーは麥粉の袋をひつくりかへしましたので、床の上が粉だらけになりました、そしてさわいで居る中に、

「つかまえたら、えらい」

と云ひながら、戸の外へパンは轉つて行てしまひました。町をすぎて、村を通して、小道の上を、コロコロと小さいパンは轉つて行きました。そしてかぢやの店の處へ來ました。かぢ屋のおぢさんはお百姓さんのつれて來た馬の足に、鐵かねをはめて居ました。お店の戸があけつばなしになつて居ました。すると何だか、コロコロ轉つて來て、床の上を大層早く走て行きます。

「まあ、ごらんなさい、何でせう」

とお百姓さんが、びつくりして、云ひました。

「あ、パンですよ、早くつかまへて、おやつにしよう」

と、かぢやさんが云ひました。そして二人でパンを追ひかけました。パンはコロコロ鐵砧かねどきの圍まわりを

轉つて、お店の角すみの方にあつた鐵の積み重なつた影にかくれました。

「あ、その鐵をすこうし、一寸、うごかしませう」と、鍛冶屋が云ひました。して、その通りにしましたら、鐵の間から、スルツと何かぬけ出しました。

「つかまえたなら、えらい」

と云ひながら、又戸の外に、バンはかけ出して行きました。山を上つて、坂を下りて、バンはコロ／＼轉つて羊飼ひの小屋のところまで來ました。

羊飼ひのおぢさんは、杖をなほして居ました、そしておばさんは晩の御飯のおしたくをして居ました。そして小屋の戸は、あけつばなしになつて居ました。すると何かが、コロ／＼轉つて來て、お室の中を大層急いで走て行きます。

「御覽なさい、何でせう」

と、おぢさんが云ひました。するとおばさんが、「小さなバンですよ、つかまえておかゆと一緒に

煮ませう」と云ひました。

そして、おぢさんと、おばさんと、小さいバンを追ひかけました。バンはテールブルの下を轉がつて壁のすきの處に、はさまつてちつとしてゐます。

「おぢさんその杖でつついて下さい、おさじで受けませう」

とおばさんが云ひました。

おぢさんが杖を持って、テールブルのそばまで行くとおばさんは筒からおさじをいそいで取らうとして煮えかゝつてゐるお粥をひつくりかへしました。大さはぎをしてゐる間に、

「つかまえたなら、えらい」

と、云ひながら、バンは戸の外へころがつて行てしまひました、小山を下りて、コロ／＼コロ／＼バンはまた走りました。

「まあ、ずるふん、長い間、かけたこと。すつかりくたびれてしまつた。もう今日はよさう。あの涼しりうな小川のそばの草むらの所で明日ま

で眠りませう」

と云て、バンは草の中に轉がりこみました。さつきから此の草のかげに居た狐は、

「オヤ向の方から、妙なものが走て来る、あ、バンだ、小さいバンだ、これは丁度いゝお夕飯だ」と、云ひながら、見つからないように、しづかにくゞして居ました。そんな事は知らずに、小さいバンはだんだん草の方へ來てスルツと草のかげに入ると、

「バクッ」

と、狐の咽へバンは這入りました、そしてもう、今度は、

「つかまえたら、えらい」

と云ふひまがありませんでした。

(スコットランド)

## 會 告

本會の創立の趣旨、長き歴史、殊に現在及將來に於ける我國幼兒教育界に對する責任と職能とを稽ふる時は、本會は愈々益々其の存立の意義にかなはしめ、其の活動を盛にすべきの要多きを思はざるを得ません。之れに關係して會員中に會の名稱の變更、同時に會則の多少の變更、會費の値上げ、又雜誌『婦人と子ども』の名稱の變更等の議があり、先般幹事會に於ても其の意見の一致を見て居ります。本月十二日開催の本會第廿三回總會に於て、之れを議題とせられる筈になつて居ります。會の進歩發展の爲の方法の改良に外なりません。兎に角く會にとりては重大なる問題でありますから、成る可く多くの會員諸君の御出席を希望してやみません。

尙ほ當日の講演は桑田氏が其専門たる民族心理

學の方面より神話の起源、本質等、又その心理的基礎として想像作用に關する有益にして最興味多き講演をせらるゝ筈ですから、皆さんの是非御出席になることを希望致します。

## 雜 錄

### ■郡山幼稚園創立十年紀念會

福島縣安積郡郡山なる私立郡山幼稚園にては去る九月八日午前九時より創立滿十年の紀念祝賀式を舉行したり。定刻、幼兒、卒業者並びに來賓入場して席定まるや「君が代」の合唱あり、慶徳園長の式辭、松山理事の事業報告、祝辭祝電の報告、來賓根本町長、山田檢事、志賀校長等の祝辭演說あり卒業生男女各總代祝辭、在園兒の祝辭あり、それより根本町長は松山理事に對し慰勞の意味にて金一封を贈呈し、次いで在園兒の紀念式の歌の合唱ありて十一時式を終りたり。次いで參會者一同に紀念繪はがき及び菓子を分配して隨意解散し

たり。當日は朝來兩模様なりしも十年間の卒業生はいづれも大元氣にて參集し、約六百を數ふるの盛觀を呈したり。第一回保育滿了者は既に中學四年、高等女學校四年に在學せるあり、創立以來總數七百二十一人の保育滿了兒を出したりといふ、同日の床しき語り草は式後舉行されたる懇談會なり、第一回卒業生男女三十一人、元の先生杉田きん子女史を圍んで懷舊談に耽りたること並びに故菅井園長及び故今泉園長の墓參を爲し、大雨に遇ひて墓側の樹下に雨宿りを爲せりとか、誠に十年一昔の感深きものありたりといふ、本會は同園のために遙かに祝意を表することに吝かならざるものなり。

# 會告

○會費御拂ひ込みの節は名前は初め御入會の時の御名前へと御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後個人の御名前へにて會費御拂込み等のことなき様必ず願上候。整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

## 本誌定價

一冊 郵税共金拾參錢 六冊前金郵税共七拾貳錢  
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割増

## 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

## 本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレイベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正七年十月一日印刷納本  
大正七年十月一日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三  
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 岡功  
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場  
東京市本所區番場町四番地

發行所 フレイベル會  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

# 日本一の 日本幼年

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。殊に毎號教育的な手技附録を添へます。

本誌は、玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となる。

## 定價

壹册拾二錢 □半年 郵税共七拾五錢  
 郵税壹錢 □壹年 同壹圓四拾四錢

御大典記念畫報  
 皇族畫報  
 婦人畫報  
 少年畫報  
 日本幼年報

## 發行所

東京橋鍛冶橋外  
 振替東京四九〇〇

東京社

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)

婦人と子ども 第十八卷第十號

大正七年十月一日發行  
 大正七年十月一日發行

印刷所

出版印刷株式會社本所分